

33頁 9 行目

説教者の所産〔Produkt/プロドゥクト〕は期待されているのであり、その一方、詩
5 人の所産は待たれてはいなかったところで市場に投げだされるものであるという点
で、説教者は詩人と区別することができよう。この点については、クルト・マルティの
次の文章を参照のこと。「説教はどのように作られるのか、詩はどのように作られる
のか」、トゥルナイゼン記念論文集『言葉と教会』一九六八年、一八三ページ以下。
現在では、ドロテー・ゼレ他編集の『文学と神学年報三』一九六九年、九四ページ
10 以下にも収められている。Kurt Marti, Wie entsteht eine Predigt? Wie
entsteht ein Gedicht?, in: 285 Wort und Gemeinde. Festschrift
Eduard Thurneysen, 1968, 183ff. Jetzt auch in : Almanach 3 für
Literatur und Theologie, Hg. v. Dorothee Sölle u. a., 1969, 94ff.

*****この部分は東神大学生説教塾では読まれませんでした。

15 「説教者の所産」。「所産」という言葉は Produkt/プロドゥクト。プロダクト、所産、産
物、作品です。説教者の所産は期待され、詩人の所産は待たれていないのに市場に
出される。それが説教者と詩人の区別であるとボーレン先生は言われます。加藤先生
がスイス現代の詩人にボーレン先生と共に挙げられるとおっしゃったクルト・マルティ
の名前が出て来ます。ここに参照されるマルティの論文はネットで簡単に見つかりま
20 す。興味深いところですが、まだ読めていません。

33頁 うしろから3 行目

もとより、動かされることなく、頑固で、疲れ切った教会もある。しかし、そういう教会
は待つてはいないのだとあまりに早急に思いこむべきではない！ さまざまな神学的
25 傾向を持った若者たち【ここは印刷ミス→著者たち】が、この点では意見を一致させ
ているのである。

「動かされることなく〔unbewegliche〕、頑固で〔verstockte〕、疲れ切った
〔müde〕教会」。加藤先生が「頑固」というところを説明されています。verstockte
30 というのはわたしにはなじみの言葉で、出エジプト記の災い物語でエジプト王ファラオ

の頑なさを言う時がこの言葉でした。頑なになって、動かない、なのに疲れ切っている。それが教会の現状だと言うのです。ドイツ教会の文脈ですが、日本の教会も必ずしも変わらないのではないのでしょうか。「しかし、そういう教会は待つてはいないのだとあまりに早急に思いこむべきではない!」それは日本の教会もまったく同じだと思います。

(東神大学生説教塾録音⑥2分) 頑固ってというのは、頑固と訳してもいいんですけど別の言葉で言うって言うと凝固したってぐらいの意味だと言って良いだろうと思う。動かされることなく固くなっちゃって意味ですね。そういう意味にもとれますし、頑固と訳しても良い言葉で、いずれにせよ教会がこう固まっちゃって疲れ切って待つてを

しなくなっていると。これはおもしろい問題提起で、要するに教会ってのは説教に何も期待しなくなっているのかという、そういう問いですね。

これはドイツのように制度的教会が制度的にも疲労しちゃってる。時代の中に取り残されて、というようなことから、待つてはいないということを行うことができるかもしれませんけども。ドイツの教会のことをごちゃごちゃ言ってもあんまり意味ないんで、日本のプロテスタント教会ってというのは、説教に期待しているのか、していないのかっていうのが、これは私は神学生のみなさんからも意見を聞きたいところなんですね。説教っていうものがいつも期待されているものなのか。最初から教会に集まる人たちは説教に期待していないので、教会に日曜日ごとに集まるのは別の期待を持っているからなのか。こういうことはほんとうは私はアンケートで調べて確定できるようなものじゃないかもしれませんけども。何らかのかたちでもう少し教会が教会員の心を聞き取ることが必要だと思うんですね。一般的に言ったら説教を期待して集まってって、それが公式の期待でしょうけれども。実際にはもうあんまり説教には期待していないというようなことがあるかもしれない。(4分30秒)

そのことを私が強く感じたのは金沢にいました時に、金沢ってというのは日本基督教団中部教区に属していますね、中部教区は太平洋側と日本海側に分かれてるわけで、日本海側の富山、石川、福井3県の、それぞれの地区に青年部ってのがあって、私はその3県の青年部をまとめる責任者だった。それで北陸3県の青年たちの集まりで指導していたんですけども。たとえばある教会の青年会の会長が、こんなやりとりがあったんです、教団の組織ですから毎年、たとえば北陸3県で青年の修養会があると、

何かがあるとかいうと、教団や教区のお金で東京や大阪から講師を招くことができるわけですね。そうすると教区なら教区、地区なら地区の仕事のために来てくださっても、日曜日の前に土曜日に来てくださって、同じ旅費を使うならばということで、土曜日に来ていただいて日曜日どっかの教会で説教していただくと。その青年会の会長はすぐ
65 言うんです。また僕の教会に来てもらいたい。君の教会はこの間お招きしたんだからもうしばらく待ちなさい。ある時たまりかねて、何かっていうと外部の講師を自分の教会に連れて来たがってる。どうしてそんなにってふうに言いましたら。いえ誰でもいいんです。僕の教会の牧師でなきゃ良いんですって言いました。うちの教会の牧師の説教の回数が一回でも少なければわれわれは助かるんですと言い方をして、私はひどく
70 びっくりしました。非常に牧師に対する失礼な言い方でもあるわけ。君そんなに説教に期待してないで、どうして教会の礼拝にちゃんと来てるのって言ったら。いやあ僕、あの先生にはずいぶん世話になってる。義理がありますからねって言ったんです。青年です。私はとっても失望したし。失望すると同時に義理があると言うんですね。先生にお世話になってるから他の教会に行くわけにいかないんだというような。非常に日本
75 的な表現をその青年が使ったことがとっても心に残っていて。いったいこの教会員の教会はどういうふうを考えてるのかって思ったことがあります。そういうことはちゃんと牧師として知ってた方が良くかなっていうふうに思ってるんですね。こういう話を今ここで長々とやるつもりはありませんけども。それについて意見があったらおっしゃってください。教会員は説教に期待はあるのか？待っているのか？もう待つことをやめている
80 のかという問いですね（8分）。

・（反応）期待してると思うんですよね。期待しているからこそ、教会員ひとりひとりが、思う以上に御言葉に飢え渴いているんじゃないのかなと思う。だからこそ教会員は牧師の説教に対して敏感になるのではないのかなと思います。（加藤先生）それを牧師も感じてる？（反応）牧師も感じているべきだと。（加藤先生）感じてるべきじゃなくて、
85 実際に感じてる？（反応）感じてると。

（加藤先生）このボーレンさんの文章で、「**さまざまな神学的 傾向を持った若者たちが、この点では意見を一致させている**」というのは、これは具体的にどういうことを意味するのか私には良くわかりません。この文章が原稿にあった時に討論したかもしれません。それをめぐって私のところに記録があるかもしれませんけども。もう膨大な原稿で、それをさがしてるわけではないんですが。若者たちの中にいろんな神学的な傾
90

向があるけども。それがそれぞれに説教に期待してるっていうことは、これは間違いないことだというのがボーレンさんの判定ですね。

「さまざまな神学的傾向を持った若者たちが、この点では意見を一致させている」というのはとても興味深い指摘です。ただここは Autoren verschiedener theologischer Prägung stimmen hier überein: となっていて、日本語の「若者」は「著者」の純粋な印刷ミスだと思われます。原文は「さまざまな神学的傾向を持った著者たちが、この点では意見を一致させている」で、以下で何人かの神学者の引用がなされます。

34頁 | 行目

パウル・アルトハウス Paul Althaus は、「教会の説教についての疲れというものが、それ自身として存在すること」を否定する。「教会はむしろ新しい舌により、新しい霊の力による説教を待っているのである。われわれの説教には倦み疲れたかもしれない。しかし、説教そのものにではないのである」(『福音主義的礼拝の本質』Das Wesen des evangelischen Gottesdienstes, 一九二六年、一八ページ)。オットー・ヘンドラー Otto Haendler は、この発言は今日もなおあたっていると云っている。(『説教』Die Predigt, 一九六〇年〈第三版〉六ページ)。

***** (東神大学生説教塾録音⑥9分45秒)

で次のページに入りまして。ここに何人かの神学者の引用があります。これはおもしろいもので。(この部分の朗読)

これはおもしろい表現ですね。パウル・アルトハウスというのは、だいたいバルトよりちょっと年上ですね。ドイツのルター派の代表的な組織神学者です。ただここに引用されてるのは、「福音主義的礼拝の本質」ってあるように、実践的な問題についても発言している人で、一時期のドイツのルター派の教会の指導的な神学者。このアルトハウスは、「説教についての疲れ」ということではないと。説教には倦み疲れたかもしれないがと言った時に「われわれの」と言ってるんですね。アルトハウスは自分も含めて、われわれがする説教には倦み疲れているかもしれないけども説教そのものにではない。だから新しい説教を期待してるのだと。そういう意味で二行目のところに、「新しい霊の力による説教を待っている」という表現をしてるんですね。

(オットー・ヘンドラーの部分の朗読)

(11分35秒)このオットー・ヘンドラーというのは東ドイツの実践神学者として代表的な人です。その人の説教論。これはとっても良く知られてるものですが。アルトハウスの引用を積極的に引用してるわけですね。

125

34頁 5行目

マンフレート・メッツガー Manfred Mezger は「説教の聴衆が、説教に〈何ものか〉を期待していること、まことに多くのこと、本来的にはすべてを期待しているということ」に驚いている(「説教の権能としての歴史的真理」『福音主義的神学』第二号、Die Gechichiche Wahrheit als Vollmacht der Predigt, EvTh 22, 一九六二年、四七八ページ)。

130

***** (東神大学生説教塾録音⑥11分50秒)

マンフレート・メッツガー。この人は西ドイツのボーレンさんとほぼ同世代の実践神学者ですが。「マンフレート・メッツガー Manfred Mezger は「説教の聴衆が、説教に〈何ものか〉を期待していること、まことに多くのこと、本来的にはすべてを期待しているということ」に驚いている」と。この表現はおもしろい表現で。実践神学者が説教の聴き手っていうのはいつも期待しているんだなということに驚きを覚える。もうあきらめられているかと思うとそうではないんだということですね。

135

34頁 8行目

——この関連で、相互には少しも似ていない**三つの現象**に言及しておきたい。最近の学生紛争において、礼拝もまた明瞭な**抗議を呼び起こす**きっかけとなったが、この行動もまた**ひとつの期待の表現**を示すと言えないであろうか。

140

***** (東神大学生説教塾録音⑥12分45秒)

これが第1の現象ですね。学生が礼拝も批判の対象にしたって。それは言ってみれば期待の裏返して、期待もしてなかったらそんなに反発もしないだろうと言ってんですよ。これはまあ少し好意的に過ぎる判断だと言うこともできるかもしれません。

145

34頁 10行目

——**礼拝に出席する者の数が減少**していることから**説教の終末を予言する預言者**

150

たちに対しては、**ビリー・グレアム**〔現在、日本では一般的にビリー・グラハム Billy Graham〕の**数的な意味での成功**を挙げることができよう。これも**潜在的な聴衆の期待**がなければ、不可能なことであろう。

*****（東神大学生説教塾録音⑥13分23秒）

155 「説教の終末を予言する預言者たち」がいるっていうのは、別に預言者がいるっていうんじゃない、ドイツの教会の人数が減って来てるっていうのは、これはもうドイツのプロテスタント教会の中心になってる説教がいなくなって来ているということを示すの
160 だろうという意見があるんですね。そういうことから礼拝の中で必ず説教をしなくてもいいんじゃないかと言って、むしろ荘厳な重々しい礼拝に力点を置くっていう運動もドイツにはひっきりなしに起こるんですけども。そういうふうな人たちに対してビリー・グレアムのような大衆伝道者にたくさん人が集まるっていうのは、やっぱり説教が聞きたい人がたくさんいるっていうことじゃないかと。

165 ビリー・グレアムっていうのはあんまりドイツじゃ人気ないんですけども、スイスでは非常に人気のある人で。この点はスイスとドイツとは同じドイツ語圏でも信仰の様子はだいぶ違います。スイスの教会の方がどっちかっていうと大衆伝道が盛んですね。また一種の福音派的な集団がいくつもありまして、スイスを旅行すると、列車で走って
170 行って言うとアルプスの山の間の小さな家の屋根に「イエスは勝利者」なんていう motto が書いてあったりするようなことがありますし。そういう敬虔派の活動っていうのが盛んなところがあります。

34頁 うしろから9行目

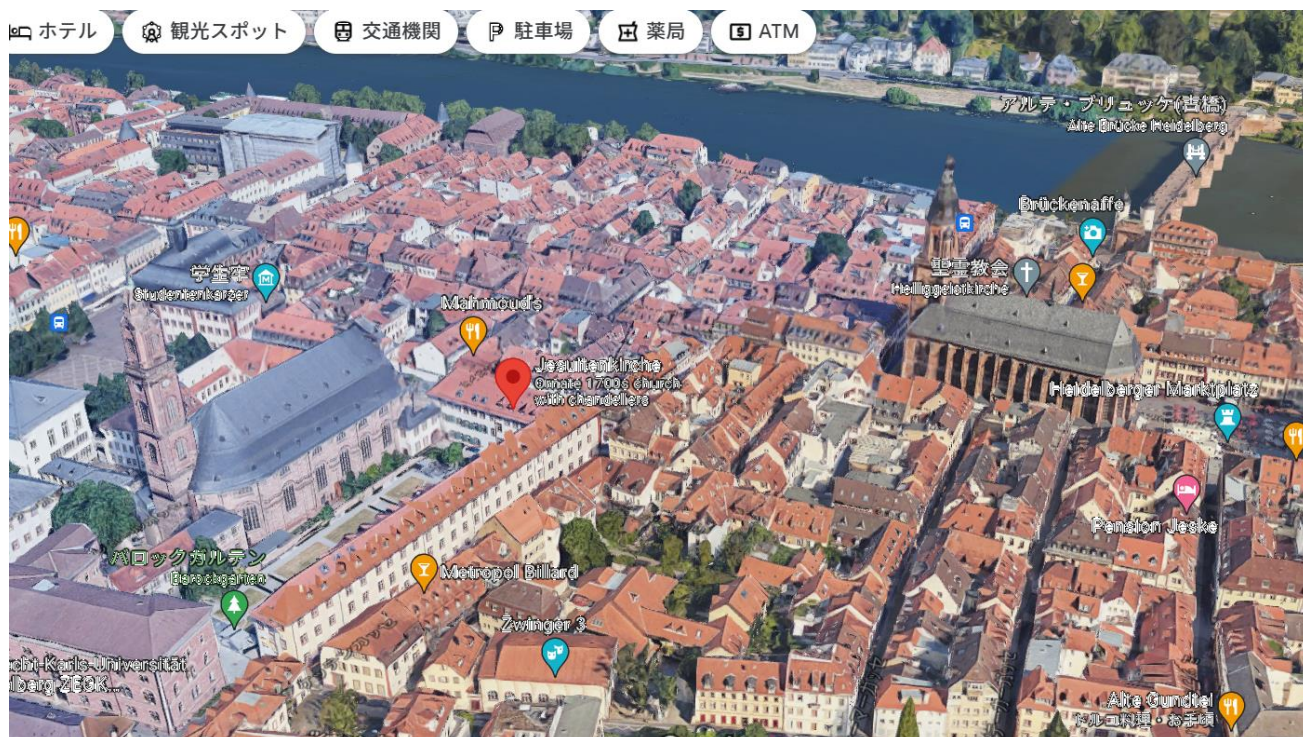
——カトリック神学の聖書的説教への転向は、聴衆の期待という表現で総括することはできないかもしれない。しかし、**カトリック神学の説教へ向かう驚くべき突如とした展開は、聴衆なしには不可能であろう！** カトリックのキリスト者たちが説教に期待していることを表わすものとしては次のものを参照のこと。『聴衆と説教、ひとつの会議報告』 オットー・ヴェーナー、ミヒャエル・フリッケル共編、一九六〇年。Hörer und Predigt. Ein Tagungsbericht, Hg. Otto Wehner u. Michael Frickel, 1960. エリザベート・プリュンネケ「対決を迫られる説教」ギュンター・ビーマー『説教のわからぬ言葉』一九七〇年、六三ページ。Elisabeth Plinnecke, Predigen in Konfrontation, in : Günter Biemer, Die Fremdsprache
180

der Predigt, 1970, 63.

***** (東神大学生説教塾録音⑥15分5秒)

それから3番目がおもしろいので。(この部分の朗読)で、これは、私はここに挙げられている三つの中で一番興味があるのは、カトリックにおける説教の盛んなことですね。

185 1986年に私が、違う、もっと後だ。もっと後に、もっと短期にハイデルベルクに行きまして、ハイデルベルクのメラー教授の家にしばらくいた時に、メラー教授の次男がですね
アメリカに留学することになって、アメリカにその次男が持って行く、この、写真ですね、
スライドのフィルムをメラーさんが作りたいというので、ハイデルベルクの教会生活の
スライドを作ろうと言うわけで、ある日曜日に、ちょっと礼拝に……日曜日には不謹慎
190 だったかもしれませんが……でっきただけたくさんのハイデルベルクの町の教会
の礼拝の様子を写真に撮ろうと、あんまり日もないもんですから、えー、駆けずり回っ
たことがありますね。おもしろかったんですけども、そんな時にひじょうに興味を持ったの
は、ハイデルベルクにはイエズイーテン・キルヒェ Jesuitenkirche ってイエズス会の礼
拝堂ってのがあるんです。そこが一番盛んでしたね。座る余地がないほど礼拝堂がい
195 っぱいですね。



左がイエズイーテン・キルヒェ、右が聖霊教会 ハイデルベルク

200 ちょうどカトリックっていうのは午前中に、その教会は二度だったかな、三度だったかな、ミサをやるもんですから、一番遅いミサに間に合って行ったんですね。若い説教者が説教してましたけれども、ずいぶん長い説教をしてるんですね、プロテスタントより長いかなと思う説教をしてますけども、若者がいっぱいいて、われわれはミサがもう始まってるところに行ったんですけども、はじめちょっと座る場所をさがすのに苦労したほどでした。他のプロテスタント教会はそんなことはない、あっちこっち空き空きでしたけども。カトリック教会はいっぱいいて、しかもかなり長い説教をしていたっていうことは、とつても関心を引きしました。

210 日本でもこのカトリック教会が礼拝説教をきちんとするようになったのはそんなに古い時代からではないんですね。特に今、力を入れるようになりました。たとえばおもしろい例は、あのみなさん買ってるかどうか、買ってなければぜひ買って欲しいと思ってるのはキリスト新聞社からミニストリーという雑誌を出してますけども、あれ、おもしろいですよ、若者のことも考えて。で、あの中に岩島〔忠彦〕っていうカトリックの神父が説教をやってるんですね。それ DVD に撮ってんです。40 分ですよ。考えられない長さですよ。ふつう岩島神父が行ってる教会でも礼拝説教、10 分やったらいやがられると思うんですよ。40 分やったんですね。で、岩島神父は加藤先生に負けちゃいけないとその 40 分の長さの説教した理由を言ったそうですけれども。それをしかしイグナチオ教会でちゃんと聞いてんですよ、会衆が。それで岩島神父が放り出されたわけでもな

215 んでもないんで、喜んで聞いてるんで。これもとっても大きい変化だと私は思っています。(19 分 25 秒)

34 頁 うしろから 2 行目

220 **われわれをひとつの期待が迎えてくれるということ、説教者としてのわれわれは、決して勝手気ままなことをやって趣味を楽しんでいる者〔Hobbyisten ホビースト〕ではないということに、驚きの心を抱くということから、説教作業を始めるならば、それだけですでに多くのことを得たことになるろう。日曜日の労働者〔Sonntagsarbeiter〕、と言われる。そのとおりである。だがその奉仕を待っていてもらえる日曜日の労働者である。****自分の奉仕のつとめを、これが欲せられ、望まれているつとめなのだということについての驚嘆から始めるならば、このつとめはまた、感謝を伴う驚嘆の思いのうちに果たされるであろう！**

Sonntagsarbeiter, jawohl, aber solche, auf deren Dienst man wartet. Beginnen wir unseren Dienst mit dem Staunen darüber, daß er gewollt, gewünscht wird, dann mag er im Staunen auch mit Danken geschehen!

***** (東神大学生説教塾録音⑥20分17秒)

これはおもしろい表現ですね。あの、自分がやってることに驚く。何に驚くかって言うと、自分が語る言葉を待ってる人たちがいることにびっくりすると言う。あたりまえのことだと思わない。それに驚くということですね。それは確かに私は言えると思うので。特に、今は、私は礼拝に出席する方になっていて。説教の務めがない時には東村山教会に行くわけですけども。他の教会員と一緒に出席していて、礼拝に出席する人間の心理状態を味わうわけですけども。本当にこれだけの労力をかけて礼拝に出席するっていうことの意味を考えるし。それはまず何よりも説教を聞くためだということを見ると。とっても興味深く思います。

私はまだ鎌倉の牧師をしていた時に、忘れがたい経験をしたんですけども、東京神学大学の恩師で、山谷省吾という新約学者の先生がおられました。この先生はとっても楽しい先生なんです。ひじょうにまじめな先生ですけども。あの東大の法学部を出て、内務省の官吏になって、山梨県に行った時に、東大出の山梨県の官吏になるっていうのは官吏の中でも階級が上なんですね。東大出て二、三年しか経ってないのに、山梨県で内務省の官吏になって、山梨県に行った時に天皇の名代として、山梨県のある神社の参拝を求められたんです。それを断ったんです。自分はキリスト者だから天皇の名代と言えども神社を参拝することはできない。もちろんそんなことを言ったらやめざるを得ないわけで。さっさとやめちゃって牧師になったという。それからすぐには学校の先生になって、第三高等学校の教授になりということをしてしまったけども牧師になっちゃったっていう、とっても大胆なしっかりした信仰を持っているすぐれた先生ですけども。この先生はぶらっと鎌倉に遊びに来られるんですよ。まったく不意打ち。電話もかけないで加藤さんとか言って現れるわけですね。

そしてある時、鎌倉の町を散歩しようって言うんで、私は時間があればご案内するんですけども。鎌倉の八幡宮の前に蕎麦屋がありまして、そこでお蕎麦が好きなんでごちそうしました。突然ですね。先生、小田急沿線のどこだったか、ちょっと新宿から距離のあるところにご家族と住んでおられるんですね。教会は信濃町教会なんです。い

きなりこういう話をなされたんです。加藤さん、私が住んでるところから家族みんなで電車に乗って信濃町に行くでしょうが、時間は何時間何分かかって、全部あわせると交通費いくら。帰りはただではすまない。おじいちゃんおなかすいたって言うから。必ずどこかでごちそうしなきゃならない。これはおじいちゃんの仕事。昼食代はだいたいこのくらいかかる。礼拝出たら献金はちゃんとしなきゃいけない。月額献金てのもありましてなあなんて話をしてですね。いくら時間がかかって、いくらお金がかかるかっていうことを話しをなされたんですよ。で、礼拝に出るってのはたいへんなことですよ。あって言って私の顔を見るんですよ。それに応える説教をしているかっていう問いですね。私はそのニコニコとたんたんと話をなされたことを忘れませんね。信徒はこういうふうにして礼拝に出てるんですよっていうことを。全部は言わないんですけれども、あなただったら分かるでしょって言い方ですね。確かにそうですね。

そういうふうにして多くの人たちが時間もお金も費やして説教を聞いてくれるってことは驚くべきことですね。そのように自分の説教を期待してくれるってことはたいへんなことで。その驚きの心を抱いた時には、ただ勝手気ままに自分の趣味を楽しんでいるなどというようなことではすまないっていうことが分かる。

ここで私はわざわざ「日曜日の労働者」っていう言葉を使ってるのはおもしろいと思います。やっぱり説教って労働なんです。アルバイト Arbeit なんです。神の国のアルバイトですね。明らかに聖書のぶどう畑での働き人などを語られた主イエスの言葉を思い起こしておられると思うんです。(25分30秒)

35頁 5行目

さてしかし、多くのプロテスタント教徒は、説教を聞くことを怠けるストライキをすることによって[mit einem stillen Predigthörstreik (直訳: 声に出さない説教聴聞ストライキ?)]、自分たちが講壇上の男からも女からも、何も期待していないことを、全く何も期待していないことを示威している。この現象がこの点で見せかけのことなのかどうか、わたしには確信がない。だが究極のところで確かなことがある。被造物が切なる思いで神の子たちの栄光が明らかになることを待ち望んでいるということが真実であるとすれば(ローマ八・一九)、

***** (東神大学生説教塾録音⑥26分)

このローマの信徒への手紙第8章19節をここで読む必要はないと思いますけれど

も。被造物が切なる思いで神の子が現れることを待ち望んでるという言葉ですけども。これはボーレン先生の最愛の聖句の一つだと私は思います。

290 **でもせっかくなので読みましょう!どこからどこまで読めば良いのか……**

ROM08:17 もし子供であれば、相続人でもあります。神の相続人、しかもキリストと共同の相続人です。**キリストと共に苦しむなら、共にその栄光をも受けるからです。**

:18 **現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りない**とわたしは思います。

295 **:19 被造物は、神の子たちの現れるのを切に待ち望んでいます。**

:20 被造物は虚無に服していますが、それは、自分の意志によるものではなく、服従させた方の意志によるものであり、同時に**希望も持っています。**

:21 つまり、被造物も、いつか滅びへの隷属から解放されて、神の子供たちの栄光に輝く自由にあずかれるからです。

300 :22 被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています。

:23 被造物だけでなく、“霊”の初穂をいただいている**わたしたちも、神の子とされること、つまり、体の贖われることを、心の中でうめきながら待ち望んでいます。**

305 :24 わたしたちは、**このような希望によって救われているのです。**見えるものに対する希望は希望ではありません。現に見ているものをだれがなお望むでしょうか。

:25 **わたしたちは、目に見えないものを望んでいるなら、忍耐して待ち望むのです。**

:26 同様に、“霊”も弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“**霊**”自らが、**言葉に表せないうめきをもって執り成してくださるからです。**

310

35頁 9行目

幻滅を味わっている者も満ち足りている者も、成熟している者も未熟な者も、説教者と聴衆それ自身が奇跡となることを待っているのである。

315 *********(東神大学生説教塾録音⑥26分35秒)

ここでしばらくの間、忘れられていた奇跡って言葉が戻って来まして。ここでは、ただ説教が奇跡ってんじゃなくて、「説教者と聴衆それ自身が奇跡となる」。二つが作ってる

320 のは教会ですから。教会が奇跡となる。神の子たちが栄光をあらわすことを待っている。そうするとここで待つてことが、ただ毎日曜日教会の説教を聞きに来る時に抱いてる期待ってんじゃなくて。ここまで来ると終末論的な期待を意味してるっていうことが分かって来ます。

35頁 10行目

それと知ることのないままに、彼らは説教が説教となることを期待しているのである。

325 ***** (東神大学生説教塾録音⑥27分17秒)

自分たちがそのことをはっきりとわきまえてるかどうかなくても、「彼らは説教が説教となることを期待しているのである」。これひじょうに厳しい言葉ですね。「説教が説教となること」。言い換えると、説教が説教となり損なうっていうことも幾度でもあるわけで。その時にはその期待に応えることができないわけです。

330

35頁 11行目

この意味では、この世のあらゆる耳は、沈黙が打ち破られて喜びになることを待っているのである。

***** (東神大学生説教塾録音⑥27分40秒)

335 で、これはもうすでにこの後の叙述の準備に入っている。「沈黙が打ち破られる」。神の言葉の沈黙が打ち破られて、喜びの言葉が聞こえるようになることを、「この世のあらゆる耳」。ここまでではプロテスタント教徒、プロテスタントの信徒が待っているかいないかとか、教会が待っているかいないかとか言っていましたけども。突然視野がぐーんと広がって「この世のあらゆる耳」が教会の言葉、説教が説教になることを待ち続けている。

340

35頁 うしろから8行目

教会には入ってこない者でも、ひそかにその耳を教会の壁につけて、語ることも聞くことも奇跡であることを証示する言葉があるのかどうかうかがうのである。

345

***** (東神大学生説教塾録音⑥28分25秒)

で、アメリカでも、こういうこの壁をへだてて聞くと言う表現でですね、説教に対する期

350 待を語る書物があって、それを読んだことがありますけれども。説教っていうのは、そういう意味では、教会の外を通して、まだ気づいてない人たちでも、説教に対する期待を実は持っているはずなんだと。

35頁 うしろから7行目

355 教会の期待ともろもろの民の期待との間にある相違は、教会は自分が待っているのは誰であり、何であるのか、よく承知しており、承知しているべきだということと、他の被造物はそれを知らない、まだ知らないか、もはや知らなくなっているということではないのである。死者でさえも、自分たちをいのちへと呼び入れる言葉を待っているのではなからうか。

***** (東神大学生説教塾録音⑥29分)

360 これおもしろい言葉ですね。あの死んだ人間にまで届く命へと呼び入れる言葉があるはずだというふうにまで言うんですね。

*****ちょっとだけ脱線です。ブルームハルトのタベの祈り 11月28日!

365 「ヨハネによる福音書 第10章11-12節[10-11節] わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。

主、私どもの神。私どもはあなたに感謝致します……

私どもドイツの父なる国をお守りください。そしてどうかあなたの御支配を明らかにお示しください。そうすることによりあなたが、あなたが目にお捉えになることができる者たちをお守りくださいます、なおたくさんの恵みを、**死のただ中でたくさんの命を、すでに死んでしまっているなら、たくさんの復活をお与えくださいますように……**」

370 こういう祈りもあるのだとの紹介でした……

35頁 うしろから3行目

しかも、**説教者がその方について語っているその方ご自身が、まず第一に、説教することと聞くことを待っておられるのである。**

375 ***** (東神大学生説教塾録音⑥29分40秒)

このことは、この後でまた展開されますけれども、誰が待っているかっていうことが、ここで実に自由にあちこちに、そのボーレンさんのイメージが動いていくわけで、ここでは、「その方について語っているその方ご自身が……説教することと聞くこと」。ただ説

教するだけじゃなくて、その説教が聞かれることをも待っておられる。

380

35頁 うしろから2行目

神が待っていてくださるということの中に向かって、われわれは説教の準備をする。神の期待の中へと、われわれは語りこむ。説教をする。説教を聞くのである。われわれの説教は、神ご自身によって期待されていた語りかけなのである。

385 ***** (東神大学生説教塾録音⑥30分15秒)

これは私は、もう忘れがたい言葉で。われわれの説教は神ご自身が待っていてくださる。その神の期待に応える説教だという理解。これはこの後、「第一の聴き手としての神」という表現でもう一回捉え直されます。

390 36頁 2行目

この点に、説教せざるを得ない究極の理由がある。説教が受け身のもの **Leidenschaft (ライデンシャフト)** [情熱の意味を持つこの語に両意を持たせている] であるということ、ここに神の派遣の行為が行なわれているということ、救い主の呼びかけがなされているのだということが、ここに含まれている。

395 ***** (東神大学生説教塾録音⑥30分55秒)

この Leidenschaft っていうドイツ語は、受け身という意味があるんですね。これとってもおもしろいことで。で、前には Leidenschaft って情熱という意味で語ってましたけれど。ここでは受け身。待たれているという受け身ですね。待たれているから説教せざるを得ない。あなたは どうして説教しなきゃいけないのかって言ったら。それは待たれているからだ。誰が待っているのか。行ったって誰もいないじゃないかって言ったら。神様がそこでわれわれが説教するのを待っていてくださる。神をお待たせするわけにはいかない。そこに神の派遣という言葉がすぐ出て来るわけで。神はご自分の期待に応える者としてわれわれを派遣してくださっているという。そういう構造を見ているわけです。

405

36頁 4行目

「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として……」(マタイ二八・一九)。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい……」(マタ

イー・二八)。いずれの場合も、派遣においても、呼びかけにおいても、待っておられる方が語っておられる。それゆえに、われわれの説教は、**二重の観点において受け身の苦しみ** Leiden-schaft である。

*****マタイ引用の後、原文に後の加筆が認められるようです。

Beidemaal, im Senden und Rufen spricht der Wartende. **So ist unser Predigen doppelt umschlossen vom Warten** [それゆえに、われわれの説教には二重の待つということが含まれている]。In dieser Klammer ist Predigen eine Leiden-schaft im doppelten Betracht [このつながりから説教は二重の観点においてライデーンシャフトである] – Passion endlich auch darin...

***** (東神大学生説教塾録音⑥32分6秒)

ここはどうしてもそういうふう to 受け身でしかも苦しみでって意味を両方ここで読み取らなきゃならない。そういう意味での Leiden ライデーン-schaft シャフトだと私は思って、こういうふう to 訳したんですね。二重の観点と言ってるんですから。

MAT28:18 イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。:19 **だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしてください。**彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、:20 あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

MAT11:25 そのとき、イエスはこう言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。:26 そうです、父よ、これは御心に適うことでした。:27 すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいません。:28 **疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。**休ませてあげよう。:29 わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。:30 わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」

36頁 8行目

440 ——— 結局のところやはりここで受ける苦しみは、説教者にとって自分が語りこむべき期待の地平線が、くり返し暗く見えなくなってしまう、自分がどこでもどんなに期待されているか、ということがわからなくなり、何よりも、ごく身近に自分を待っていてくださる方を見失ってしまうことなのである。

***** (東神大学生説教塾録音⑥32分56秒)

445 ここでとっても興味深いのは、今読んだ文章の「何よりも、ごく身近に」って言った時に、われわれがうっかり考えるっていうと「ごく身近に」教会員がいるじゃないか、自分の妻がいるじゃないかっていうふうに考えてしまいますけども。ボーレンさんは説教者の一番身近なところで説教を待っていてくださる方は神だと見てるんですね。神が一番身近な聴き手だってんですね。

450

36頁 うしろから5行目

われわれは、見えるところによらず信仰によって生きているのであるから、この見えないという苦しみなしに、説教において「情熱をこめて喜んでいる」ということではないのである。

455 ***** (東神大学生説教塾録音⑥33分46秒)

苦しみってことをずっと語って来てましたけども。ここではじめてと言っても良いんですが、見えないって苦しみという言葉を使います。あの私はこういう言葉を読むと思い起こすのは、ディートリヒ・ボンヘッファーが若い時にですね、彼はベルリンで副牧師として伝道をはじめて、そして日本語で現代信仰問答って訳されたようなカテキズムまで
460 書いたりしてるんですけども。その時にボンヘッファーが書いた短い文章の中に、神が見えないために僕はこんなに苦しんでるという言葉があるんですね。私は若い時にそれを読んで本当にはっとさせられました。ボーレンさんも同じように言ってるわけで。「この見えないという苦しみなしに、説教において『情熱をこめて喜んでいる』ということはない」。

465

36頁 うしろから3行目

しかし、われわれが説教しているそのお方は、今来りつつある方であり、そのような方としてわれわれの説教を待っていてくださるがゆえに、喜びへの出口を開かぬ苦

しみは、ここには存在しないのである。

470 *****(東神大学生説教塾録音⑥34分55秒)

そう言いながら。またそのキリストは来りつつある方、今身近に迫って来ておられる方で、そのキリストが、神が待っていてくださるから説教しないわけにいかない。喜びに向かって突進しないわけにはいかないと、そういうふうには、とっても望みを持って、この言わば、序論の中の序論、第一章を終わるんです。この第一章っていうのはずっと読んできて分かりますように、いろんな問題を含んでいて、それがこれから解き明かされて行くわけですが。あのひとつの見方をするといかにもボーレンと言う神学者の特質が良く現れているところだと私は思います。夏前、この第一章まで終わったんですけども、とっても大事なところは読み終えることができたと思います。(36分10秒)

480 ここまでで質問、意見があったら何でも自由にしてください。

(意見)待たれていることを喜ぶということがわかりましたけれども。聖日に礼拝で説教する機会がありまして、その時にやっぱり驚いたんですけども。説教壇から聴衆を見た時に、その聴衆が真剣に聞いているなあと。次の言葉を待っているって姿勢って言いますか。そういう眼差しを説教壇に立ちながらとても驚いた経験をしました。でもその時に一瞬ほんとに自分のつたなさに……ちゃんとここに神の言葉が語られるようになっているのではないかと。おそろしいこと言ってますけど。そういう驚きを受けました。

(加藤先生)そう。われわれも鎌倉雪ノ下教会でね。あそこの場所に立つと良くそれを感じますね。ほとんどぎくっしますからね。ひとつには私はやっぱり。本当に説教を聴く人たちってのは、命の言葉を期待しているっていう、そういうことがあるんですよ。前にも話したかもしれませんが、鎌倉雪ノ下教会にいた時に、ずっと休みなしにわれわれは働いていて、ひとりの長老がずっと休みなしって良くないって言って、ちょっと休んでらっしゃいって言って、自分のお金出して箱根のホテルを一晩だけ予約してくれて、車で連れて行ってくれたんですね。で、一緒に食事をして、それじゃあって言って、495 高い山の上ですよ、車で下りて行っちゃった。すぐ電話がかかってきて、ひとり教会員が心筋梗塞で倒れた。すぐ来て欲しいって言うんですよ。どうしようもないんですよ。私はもう神様はきっとこういういたずらなさるって思ったよって言って。で、車の手配して、とにかく下りられるだけ下りようかと思って。ところに電話が入って来て。今夜は命をと

りとめるようですから、明日どうぞごゆっくりって言うんで。一晚眠れない思いで翌朝
500 待ったら、すっかり元気になりましたから、どっかで遊んで来てくださってことになっ
て。で、帰って来たんですね。そしたらそのご婦人が、しかしやっぱり相当シリアスなこ
とで。心筋梗塞が厳しくて入院して。そしたらその次の日曜日の、見舞いに行っ
ね、しばらく静養しなさいって。日曜日、司式をはじめたら、そのご婦人がいるんですよ。
私はびっくりして。気が気じゃなくて礼拝が終わってね、声かけた。お医者さんにとめら
505 れたでしょって、僕はこわい顔して。そしたらそのご婦人がすぐに言い返したんですね。
「先生までそういうこわい顔するんですか？ わたしの気持ちはわからないの」って言
ったんですね。私は「わかった。今、わかった。もう二度と言わない」。で、ずっと病院か
ら通い続けました。その時にやっぱり私はね、その言葉の本当の意味で命がけて説教
ってのは聴かれてるんだってことを感じましたね。その人は地上の命が医者のもちろん
510 禁止命令を破って病院から出て来ちゃったんですね。医者にははっきり自分は責任持
てないって言われたところで出て来た。私はやはり、ああこの人は地上の命が今終わ
っても良いと思うぐらいに礼拝に来て説教を聴くんだって。これはもう忘れられない経
験で、その方は結局心筋梗塞でなく癌でまもなく亡くなりましたけども。忘れられない。

私はその時に、こう本当にそうだ説教ってのは聴いている人の命がかかってたと。た
515 だ肉体の命がかかってるんじゃないくて、その人の霊的な意味での生き死にってのが説
教にはかかってるんだと。そういう意味での期待をされてんだと。自分の命の言葉をこ
の人は語ると思って聴かれてるんだってことを強く感じたことがあります。それはやはり
われわれが説教をはじめようと思う時に聴く人たちが持ってる眼差しの期待がそれを
示すんですよ。やっぱりそれこそいい加減なこと語ってられないんですよ。ただエンタ
520 ーテインメントみたいな楽しませる話なんかしてられないんですよ。(43分 16 秒)

(質問) 説教ではなかったんですけど。この前89歳の方が手術をするので、教会って
いうところにはじめて行ってみたいって言われて。その方が行きやすいような近くの教
会に、その方に伴って一緒に行ったんですけども。その時にはもう牧師の話が終わっ
た後に参議院選挙のことのお祈りと日本の国が栄えますようにっていうお祈りをされ
525 たのを聞いて、ずっとこれから教会に行こうと思っていたその方が、神を求めているす
べての方のために祈っておられなかったのと、参議院選のことをお祈りをされたのが、
気持ちがわからないっておっしゃったんです。で、その時って何て言って良いかわから
なかったんですが、どうなんでしょうか？

530 (加藤先生) 状況がわからないと何とも言えない。だって牧師の側から言えば参議院の選挙のために祈ることは当然でしょう。今むしろ日本の教会はそういう祈りをしなくなってるからね。それと人の命とで。だいたいその人がそこにいることを牧師がどう受けとめたか何とかってわからないし。簡単に人の祈りの批評はできないですね。

(質問) 牧師先生の祈りじゃなくって、別の方の祈りなんですけど。

535 (加藤先生) それじゃますます。その人のために祈ってくれて言ったの? (質問者) いえいえ。(加藤先生) そうじゃないでしょ。そしたらそれはもう、人の祈りの批評はちょっとしにくいでしょうね。祈りの批評ってのは気をつけた方が良いでしょう。そんなに簡単に出来ない。

540 (加藤先生) 他にありますか? この中で夏期伝道に行かれる方は何人あるの? 結構多いんだ。まあ、夏、厳しいですから健康に気をつけて。善い伝道してきてください。何よりも伝道することは喜びだっていうことを、説教するってことは喜びだってことを、ボーレン先生が言われるような意味でして来てくださると良い。今学んだように若い者の説教も聴く人にとっては、その命にかかわることだということを真剣に受けとめてくださると有難いと思います。(46分48秒)

545 祈りを致します。

与えられた場所で、与えられた時を、与えられた書物を、読みふけりながら、自分たちに与えられている喜びのわざを確かめることができ感謝致します。

550 自分の弱さを嘆かず、あなたが与えてくださっている賜物の豊かさを信じて、それを精一杯生かし切るために、勉学に勤しみ、奉仕を喜びとし、伝道する勇氣に生きることができますように。

特に、夏の厳しい気候の中で、伝道に出かける者たちに、実り多き夏を与えてください。伝道者としての確信と喜びが、なおいっそう確かなものとなる体験をさせてください。次の1週間経ったこの日に説教の備えを致します。そのための備えのひと時をあなたが祝福して下さり、実り多き言葉を、あなたが与えてくださることを信じることができますように。この場所を貸して下さった東小金井教会の伝道の歩みを、あなたがどうぞ、牧師、信徒、心をひとつにして歩み抜く歩みとして祝福してください。これまでの導きを感謝し、教会の頭である主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。